

輸出事業計画

※申請者名：株式会社ファームオリンピア 品目：かんきつ（温州みかん等）

1. 輸出における現状と課題

○現状

- ・熊本市西区の河内町は、熊本県内でもかんきつ栽培が盛んな地域であり、九州各産地の中でも比較的高単価かつブランドの確立されたみかん産地である。また、玉名市天水町は、かんきつ栽培の歴史が長く、熊本県内では「みかんのふる里」という位置づけである。
- ・産地は高齢者が農業を支えており、後継者は不足している。季節労働者も高齢化とともに引退し、人手は全体的に不足している。輸出する農業者もいるが、新興国からの需要に供給が追いついていない状況もみられる。

○課題

【生産・製造】

- ・生産者の高齢化が進んでおり、需要拡大に伴う労力不足が顕著になっている。
- ・輸出先国の残留農薬基準に対応できる防除暦等の仕組みが整備されていない。
- ・急斜面の圃場では、モノレール設備の老朽化が顕著だが、使用している設備の製造メーカーが倒産しており、修理が困難となっている。
- ・緩斜面の圃場では、基盤整備が遅れており、生産性が上がっていない。
- ・輸出向け温州みかんを増産したいが、条件の良い農地が見つからない。

【流通】

- ・集出荷貯蔵施設での保管中に、温暖化の影響で腐敗果実が増えている。
- ・従業員の高齢化が進んでおり、選果時のコンテナの移し替えや移動が負担となっている。
- ・集出荷貯蔵施設までの通路が狭く、大型トラックによる集荷ができない状況にある。

【販売】

- ・温州みかんの輸出以外では、自社の雑柑生産量が少なく、通年輸出ができていない。
- ・台湾への輸出ではブランドの浸透が進まず、伸び悩んでいる。

2. 輸出事業計画の取組内容

【生産・加工】

- ・小型機械導入による軽作業化および省力化をはかり、生産性を高める。
- ・台湾の残留農薬基準に対応できる防除暦等の仕組みを整備する。
- ・園内道の入らない急斜面の圃場では、モノレール設備の更新をする。
- ・緩斜面の圃場では基盤整備等による栽培条件の改善を行い、作業時間を短縮する。
- ・輸出のための共同販売体制の拡大により、輸出向け果実の取り扱い量を増やす。

【流通】

- ・温暖化の影響を受け難い、集出荷貯蔵施設を、通りに面した場所に新設する。
- ・選果作業の省力化が可能となる機械類・パレットを導入する。

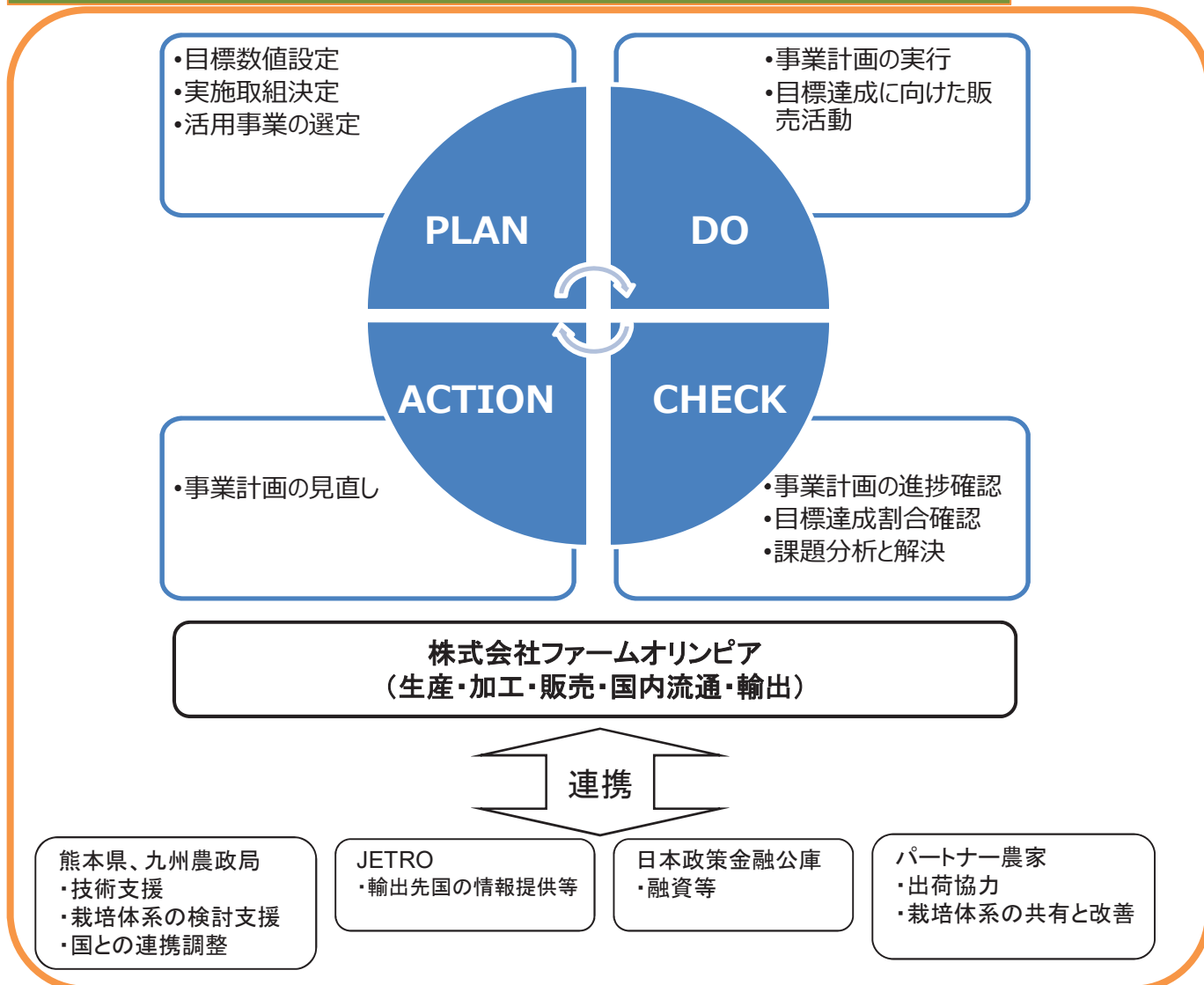
【販売】

- ・雑柑類を主に生産する他の産地との連携による通年販売体制を構築する。
- ・台湾輸出に向け、価値の向上とブランド化をはかれるパートナーを見つける。

輸出事業計画

※申請者名：株式会社ファームオリンピア 品目：かんきつ（温州みかん等）

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



4. 輸出目標額

河内・天水地区		現状（令和2年度）	目標年（令和8年度）
温州みかん	輸出額	6,000,000円	9,000,000円
	輸出先国	台湾、香港、シンガポール、マレーシア	台湾、香港、シンガポール、マレーシア
不知火	輸出額	0円	1,000,000円
	輸出先国	—	台湾、香港、シンガポール、マレーシア
河内晩柑	輸出額	0円	500,000円
	輸出先国	—	台湾、香港、シンガポール、マレーシア